

一般質問通告書

通告順番 2 番

通告者 岩下 啓史 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 一刻も早く小中学校給食費の無償化を	町民の暮らしは、物価高騰により苦しくなっています。大津町の税収は、着実に増えています。ここ 3 年度で 5 億円増加しています。更に、今後も税収の増加が予測されています。 大津町での給食費無償化にかかる経費は、1. 8 億円と財政調整基金の一部を活用すれば実現できます。 金田町長は、子育て支援・教育環境日本一の町づくりを掲げています。現在、小中学校の給食費無償化を実施している自治体は、2023 年 9 月 1 日時点で 547 自治体と全体の約 3 割に及びます。 一刻も早く、子育て支援・教育環境日本一の町づくりを目指すならば、今年度中に実施できるのではないのでしょうか。	町 長
2 持続的な農業支援の仕組みづくりと給食センターでの町内米の使用	（1）持続的な農業支援の仕組みづくりを T SMC の進出以来、大津町では大きな変化を迎えています。とりわけ、大津町民にとって安全で美味しい地下水はなくてはならない宝物です。その地下水は、半導体製造などで大量に組み上げられており、T SMC の第一工場と第二工場合計で年間 800 万トンの計画です。これは、大津町と菊陽町の年間の水道使用量に匹敵する量です。 地下水涵養に最も効果があるのは、米作りと広く知られていますが、大津町での米の作付けは全体の田耕地面積の 1 割程度となっています。 また、物価高騰に伴い、日本人の主食である米が足りず、価格が高止まりしています。 安定的な米の提供には、取引価格の安定と長い間にわたって農家が米を作り続けることができる仕組みづくりが求められています。 昨年の 12 月議会で荒木町議への答弁で、金田町長は、「さらなる食用米の生産拡大と農家所得の向上により持続可能な農業経営と農業支援の仕組みづくりについて、農業者をはじめ農業関連団体等の関係機関と連携し研究を進めていきたいと考えております。」とのことでした。	町 長 教 育 長

一般質問通告書

通告順番 2 番

通告者 岩下 啓史 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
	今年から始まる作付け拡大協力金とウォーターオフセットによる、大津産の米の作付け面積拡大と協力金の見込み、ウォーターオフセットによる米の買い上げ予定をおたずねします。 （2）給食センターでの町内米の使用 大津町の農家が米を持続的に作って食べていけるようにするために学校給食に町内米を使用するのはどうか。 現在、給食センターのご飯は外部の米飯業者に委託しており、大津産の米は利用されていないということでしたが、なぜ米飯業者に委託しているのかその理由をお尋ねします。 大津産の米を学校給食費に提供するための具体的計画、合わせて有機栽培米の普及について予定がありましたらお答えください。	